詩學

故人五百題

上

叙

[illegible]諸載のきらひいなき[illegible]
物[illegible]て用[illegible]時[illegible]隙と[illegible]り[illegible]る時[illegible]
[illegible]石にひ[illegible]ろ[illegible]隙を[illegible]人と思ふも
失[illegible]の地理を[illegible]を[illegible]導人を
[illegible]所[illegible]所[illegible]所[illegible]我[illegible]
を[illegible]ひ[illegible]多[illegible]師の教を[illegible]
[illegible]微中[illegible]実[illegible]の思[illegible]

師爲之友を靠路し一老翁三年秋のことなりき
時あかつき其孫に向ていはく現みたまひ
故老の予新に仕ふ時よりたちまちに能勢の二字を
殆しも今老能を形人ありあり殘て今の
師宗其踊を案ずに讀檢のやうあり形るなり
時ふるまつ又年あり一日曛旭陰よりて囊中
より一小冊を取出て与ふ是れ紹巴
文祿の世とし十指を折りて從三位の

詩をあつまる者矣紹巴家周の世を四序の
題を又百に忍ぶまで和歌を形し殆
ものこ殊より今は予の人のみよ殘れる琉球の
珠を得の無し紹宗の年代を持ちたる矣
懷紙を刻で紹巴に与へ命名を求む時予者
無所に陳を老無聊なる所を以て
無ひ頻に推敲をむるを以口編者の名無
之人なきを恐れとよしと筆硯を殆

芸窗一すぢ抜江都へ文を飛して其事務
ちと乞に陵新長の嫁へ等閑て海を渡すを
嘲て東武うを以て落しめ其頭歸あん
ての巻和式隨俵の殊の餘ほうめく古人
巻歌句集と為の序を頭するあまりを
抽て加序をもとすること

南總富山人臆地菴龜足

東京帝国大学図書

凡例

○古人の事を載せしの雅藻ありて世を経ハ
格の数歌形るものハ不分歌の事を一集中数歌を
分て其事物の事を歌を漫にしてハ事形一
かゝ松を出して其為を歌の文字以人さくにかゝる
伝ものを人毎ものかゝ人ものを出て集中是に海を
諸集物賢人の子に繼ものを出あり其序あ二十年
の樽に遠の詩を詩を以序ものを
世を乞に有ものを風流第一の巻物あ也

ある聖案の古例まあるひて甚まくの弾ま

○ はるかよりはつふ古人あまくしこ云も元録年中のころ

ちをめて書るす甚代とても略ちたといつもあるたは家

測あの古ことを思へ減へ体も書く形らるる形とあるす

乃ち大概をを案平

○ 甚所ま古人形ーとつてもたちたちあ字武

重頼ら園甚ひうり連絡ちて宗周乃ひ和物

思へ来山あるを近世ちるも一句拾あるあく

○ 初学の手ちも時代字賛をかくくもあさ書屋

もあく甚略を句弾形く

○ 素林堂ちあ字里堂又春柳舎く彦義園京保の

源氏形ちく船帝月ぬの姫よをてあ弾形ー

○ 寛平十二年帝の孫をいちる源今者ち右き曲ちる

乃家人改味ーて古人の分号をいつも又所い一脚とす

○ 義ちをちあ雪ちの世え案異度の宗弾案八句弾家の集

あるハ悪く笑ひ与へ人ちの孝にあちをあ

○ 歌ま重てを法案に形ちるかるる塙山井をを書て案

改案形ちるる案行ま絡ちたあるを補ひ歌ま句

乃あるるるを案ちあく一句を宗仕をを志ひ世ちる

俊ちる形ち歌名をあるを勅撰ちて勅撰の歌まあるす

○さて四季の歌は能因とつゝる部を不分歌の書に能因
いつる名あるを又猶かゝをしを略す
○李のぬしゝる人の国所浮あるさるハ元来詩集歌集の中
より浮ゝるをもしく詩集に益あつて所より用ひ歌
集を撰ぶに押て志ゝ人と女と詩集混雑ひ一路く
○集中異名不行とあるを無ふよくこの類まを
あゝ詩集ゝ多ゝもあれ又旦ゝ多ゝあるを知て補ひぬ
○歌しし集中なひ中ゝ字ハ七ゝ字出てゝ仮名あり字ハ
雲のこゝ中ゝ中ゝあるを美平万葉を仮名あるにを
あゝ再案の例ゝ多ゝし

○真字ゝ多涙の生ゝ物ゝの字ゝ多ゝてゝ仮名ハ一字ハ字の大切
第ハ文字ゝ毫髪ゝ字句の意を形ゝをなゝ古人の心
に意ゝを体を忘る鳥焉馬の多ゝひあゝ世ゝ多ゝ仮名とつく
ゝ多ゝ裏ゝ体を魅ゝ顔ゝ顔あゝ其後の人卿ゝ
○門ゝ古紀往中逢莫の古ゝ体ゝ字ゝ多ゝ体ゝ多ゝ世
句ゝ加ゝ字ゝ多ゝ加ゝ古ゝ仮ゝ文を云ふ集ゝ繊意也
○此集集ゝ意ゝ対物ゝ陪行して文意に等ゝ少ゝる
体ゝ体集ゝ人閑ゝ多ゝ古ゝ紀人ゝ多ゝ及ひ
毛詩ゝ加ゝ一ゝ物ゝ中ゝ仮ゝ舞ゝて日ゝ和和和
の字ゝの飛白ゝ多ゝ冊ゝ冊ゝ冊ゝ冊ゝ

抑歌の事あるべし歌頭工業の一助とする

○当今歌とは[illegible]に加えて六百余歌

あるべし月録は[illegible]其歌を[illegible]

まで歌の下ちを入合て[illegible]千月と引合入[illegible]

丁未歳

[illegible]

松露菴[illegible]人

古人立百歌　春之部目録

梅	初丁	梅	二	余[illegible]	三	鶯[illegible]	四
柳[illegible]	四						
岸辺							
元日	四	神宮	五	[illegible]	五	神鶏	五
神[illegible]	五	[illegible]鳥	五	神[illegible]	五	神[illegible]	五
[illegible]	六	春[illegible]	六	[illegible]の春	六	[illegible]の[illegible]	六
江戸の春	七	[illegible]	七	門松	七	大[illegible]	七
はつね	七	[illegible]	七	[illegible]	七	[illegible]	八
霞つま	八	蓬莱	八	為[illegible]	八	[illegible]	八

辛夷 八
若菜 九

植物之部

子の日 九
若草 十
雪花 十三
梅 十四
鶯 十五
柳末 十六
鶯 十七
梅末 十八

蒙霧 八
雪間草 九
水仙 九
菫 十
柳 十一
桜 十一
若草 十三
蕨の芽 十四
蕨の芽 十五
木瓜 十六
若菜 十七
海棠 十八
木蓮 十九

牡丹 十九
若草 二十
山吹 二十
蕨 二十一

蕨之部

蕨 二十一
猫の目 二十二
春雨 二十三
雉子 二十四
飛鳥 二十五
椿 二十六
陸 二十七
田螺 二十八
若角 二十八

時候之部

雪 二十九
霞 二十九
霞 三十

菊 二十
物思 二十一
白魚 二十三
魚の巣 二十三
雲雀 二十四
鶯 二十六
燕 二十七
蛙 二十七
蜜蜂 二十八
陽炎 二十九
蝶 三十

風中　三十一
ぬくら　三十一
雲風　三十二
春の雪　三十三
雲のみね　三十四
海苔　三十五
陽炎　三十五
彼岸　三十六
長閑　三十七
夕千　三十八
つゆ霜　三十九
都而百五十二題

霞入　三十一
燒野　三十二
春風　三十二
雲のね　三十三
春の山　三十四
海雲　三十五
余寒　三十五
涅槃　三十六
西行忌　三十七
雛会　三十八
曲水　三十八
山笑入　三十九
紀春　三十九

濟度　三十一
残雪　三十二
春角　三十三
春の海　三十四
雲のみ　三十四
天の雲　三十四
草餅　三十五
帰雁　三十六
雛会　三十八
烟草　三十九
春湖絵　四十

花

古人五百題発句集

春之部　南瓢 瞻加 蕃龜 足 行 西 恵 広 明 校合

花咲て七日雨降る桜哉　芭蕉翁

高ひくみ花の高みを見ぬ人ハ

一僕と思ふ人ハ

花ちるとおもふ人ハ

花ちるて世ハ風を恨ふ

花ちるて波世ハ風を恨ふ

何事ぞ花見ぬ人の哀　刀

啄木鳥の枝末ハ花の中

李吟

信徳

童軌

嵐雪

去来

太草

春雲の猶さいつるすゑ人の
羽風をうるよ梢をあらしすな
峯の雲すこしをうるも
花の宇治川をたきまはせ
春の年の雪ふるまぎれに
花をもとめて老ぬ
ひとりよりの人を
あつまるのつまの
花さうの大徳
かゝるおもかげ
一本をふるまぎれ
花の雪世を一さんの入日

許六
西鶴
野坡
去来
智月
木節
野坡
史邦
杉風
性如
浪化
如七

暮ゆくに
花をたづねる
暮雖
花の
あるかの
花の
美の
花の
美
花
山
増
美

暮ゆくに花の梢のたづねて
花をたづねる浪の
暮雖
花の浪の思ひ
花の都
美の
小鮒
鯛
花の
美
小鮒
鯛
花の
美

思賈
晩翠
友五
化仙
化
杉候
梅壌
化北
嵩白
鮒人
石里

櫻

霞からみえ物にまかせし花の香ぞ　野文
酔ふしてきて暁よりも花の山　冬蜂
隠家は銅鑼もきこえや花嵐　巻　尼雄
まてあそび花の名所や江戸　可推

木のもとに汁も鱠も櫻かな　翁
咲乎やさぬら定めむ山かつら　其角
名のつけ所の白し吉野櫻　渉春
生先のあへし枝もちる櫻　史草
さぬら都も生の句ひかな　洒堂

咲き折て人ゆくとも山さくら　一鉄
人も見え帘し吉野の山さくら　杉山
世の理のさす観きこえより山櫻　白柔
櫻あれさきまち一重ともみなれ　暁山
山さぬら蝶をとりえて塩もなし　常丘
丘櫻を籬地のちらす櫻かな　末圃
ちるなし鯖のさめる久さかな　自槐
鮮きぬら寒蝶ちかる句ひかな　山川
山櫻世をはなれる櫻かな　猿雖
なりさ船上聖の櫻哉なり　杉風
山さぬらりつ近のにあひかな　紀紀
銀杏の陵上の櫻咲きけり　綾川

糸桜

山さくらちるや小川の水車　露牙

是よりは命拾ひけれ桜がり　嵩岡

分入りし人の昼たし山さくら　麻文

ほのかに見る事あり山桜　宝玉

氣をゆるす光ひとへし山桜　柳居

一汐さし鳥のこゑせず桜かな　百雉

ぬれも雲桜のそこやかすみけり

糸ざくら花も糸瓜嵐かな　乙州

両袖も春のすがたや糸桜　野坡

糸桜すこし嵐のまどもよし　素丈

美しや花に糸瓜ちる糸桜　尺艸

初桜

咲ことは松の中より初桜　翁

見る所出来るや初桜　乙州

あの松の花はしや初桜　千那

花の跡ちりのあと初桜　和及

めでたさの一重の初桜　一笑

初さくら花の初桜　鬼貫

初さくらやさしく咲にけり　利雪

遅桜

万の人のちり残り桜　其角

山ちる人も来て山路の遅桜　凉菟

昔のまつしく咲遅ざくら　史邦

元日

[illegible]

元日四海の日こゝに悪しく
元日や常春十乃指黒し　蕪村
元日や鳴て笹の子かくれ
元日や家々四つの方をむく　吉朱
元日や非代の子もよりあつまる　守武
元日や何よりもとむ野の雉　忠知
元日や汚れし壁川の表の
元日や鶏養の絵のうつりより　[illegible]

五箇山川　[illegible]

元日

元日や[illegible]の[illegible]の道　所[illegible]

[illegible]

梅ゝ[illegible]の[illegible]

[illegible]

元日や[illegible]

元日や[illegible]

元日や[illegible]

元日や[illegible]

元日や[illegible]

元日や[illegible]

元日や[illegible]

嵐雪
支考
[illegible]

任口
支考
乙由
利牛

[illegible]
可風

初霜　西鶴
　　斜嶺
　　如皮

　　雪坡
　　雪坡

初雪風　宗頼
　　多鮮

初雁　宗白
　　乙也

初夏　春夢
　　令徳
　　春室

春之　春吟
　　雪坡

冬鶯　義
　　正秀
　　龍湖
　　涼慧

華乃はる

草も木もめでたくうれし花のはる 貞徳
鶴々の人もめづらし若さ乃春 宗因
西遊れら手見れなりて今朝のはる 休甫
猶暗篆するかされさりけり明乃春 西武
誰人を薦着ています花の春 翁
めん〳〵しの嘴もとれるや若竹のはる 嵐雪
花のはる清き嘴坐ながら 沾洲
世の春連歌な戸たちまち 文鱗
花乃香抄り絵の世ふらまれけり 鶴雪
投入乃下をも壺かな花の春 柳居

江戸乃春　福寿草　門松

独りの音貫め江戸の春 其角
絵どりつ作る松あり江戸の春 沾徳
海近し朝日のもふらるる江戸のはる 祇空
福寿草めでたき根はしゐ 玲風
懸のあるぞ花の色をいや寿草 扇雪
みんなをも手にとりて福寿草 兎士
はるやびりめでたき門の松 鴻元
松竹や伊勢乃宮人の縁 其角
霞の中の松も立ちや門乃松 寿米

大麻の
はくさん
屏風
雑煮

大麻の吉野の雪の白ひかり
大麻くさ夕と夜明るの遠ひ影
杉戸絵の麻の朝志夕ぎか

遠国より梅のいたかせつひか
大々めて越の春ってめてされ

屏風さーて小袖出むの
いと書あり屏風絵形あるもう人ぶ
西はも はるて形て雑煮ぶ
及椀の雑煮ぶ一ぶ

防川
梅風
尚白

鳴海
北枝

立志
荷兮

嵐雪
車庸

太箸
喰つく
蓬莱

古箸を命を形くたるる
鳴るはしやつ年盃四俵う形

かつくと喰つくすぶ
喰月の本曽の白ひの梅もの
くひつ本の山長の味を覚る兎

蓬莱の中を形雪の大ひ俵
かくらひよ現遠形ゆめてさ出よ
ゆえやうたいさ蓬莱の賛法
蓬莱の越くて通よ嵐う形

安都
知七

嵐雪
徐々
柳長

箱
少庵
宗長
異要

巴蕉
和久

京雀
義

何仏

言葉
ヲ仏

吉弟
拾北
黒屋

本等
利生
義

其角
沾圓

雪舟
嵐雪
京仏
乙史

子の日

かね引

七種

子の日遊に都へ出む友もがな
ひとり千度のものの紀貫之
拾ひそ大根引子の日

白尼
重物
宇治

玄来
宗長

ちはやぶる神代子の根若
那の原池の鶴年のよはひ
七くさや唐土渡り来
ちはやぶる神の御

瀛洲春
真角
地蔵
桃蹊

妙鈴

ちはやぶる神の御
ちはやぶる神の御

一ぬき出て高つきの鈴うち鳴
雪橋戸鈴あり高陽山ふもと
鶯のよしつくり鈴の音
笑ひ入てみうち歩すちの鈴
那の一遍鶯よ鈴の出て
鈴板の鈴のうに雲もうな
白陵の鈴ふ鈴つ
青の鈴鈴の鈴の鈴

車庸
乙出

瀛
真角
嵐雪
猿雖
宗長
我峯
越也
孤屋
妙行

若菜

昔ハ子の日よりふるき寳のつ若那ハ
白馬かへりにハ千代のいのりつくるにつミ
若菜つミ羹のむさんにさんを信
七色をいのりにつミあはす定めハ
いふにいひそへてもとめ給ひぬ
堂とに思ひて其日のいはひ
菜の嫁女む酒の若菜かな
こち駈ていくちつむ野の徑も
つミ摘て誰かとさに若菜かは
若那野辺にゆかれ神しきの跡
積まりて何ともたへむいのりは
野をさしたて進ちてつむ若菜

翁
其角
去来
土芳
楚文
浪化
曲翠
細扶
路通
杉風
野水
史邦

芹

大内の御前にくつろぎあり
うきぬふぢ遊べしきのほに若葉かひ
此からにて出さく縁のほとかは

よそに見えつゝ物置る芹乃ね
芹あつめ路よりこしは水の流
ミはいなかさの清水四芹ハ
我なりと鏡の迷ふ根芹ハ
猶さかえて根芹つむある東風ひ
芹つミの根かきそへしかなる舟
何それの釋迦とる根芹の事
嫌ふこゝにのみはつむ根芹ハ

越人
杜国
野坡

其角
惟然
挙白
丈草
利牛
好顔
山店
コ斎

梅

梅の字にのつやはの字山路の字山家の字山梨の字山葵の字梅の字
形つゝ丸く枝のはゝあやゝめ紅花
うめ一つ又一輪いくのあさゝうは
破れてゝ雪ふる時梅の白ひひ
所すてゝ白梅ゝ花も梅根ゝ形
樓ふはき時ふてよつちもやゝめの花
ちゝ月をはいりぬ梅の一全ひ
拙くいとあゝたさて梅の花
用ひちて西のはて梅の花
梅ゝ春の球始きえゝ花其ゝちゝ
うめの花色よゝて白ひひ

義
其角
嵐雪
去来
化北
尚白
拙庵
從古
桂雄
賀下
素山

十一

嵐雪ふ形ゝ梅の花ゝ
ちゝ春ふすゝ梅の白ひ事
梅ちゝて空西のはて
うめ折て雪ふる春ひ
春の色ゝ月ふて梅の花ゝ
ゝ春ゝ梅の花ゝ
白梅ゝ色ゝ梅の花ゝ
十八ゝ白雪に星ゝ梅ゝは
西ゝ春ゝ形ゝ月ゝ帝の梅の姿
湯ゝ星ゝの蓋ゝ湯ゝ春ゝの花
梅ゝ春ゝ梅ゝ寿ゝ歩ゝ功徳の
ゝ白ゝ春ゝの紙部ゝ梅の花

冊屋
宇白
宇春
一樹
春の虫
色は
ゝ月
乙虫
柳枝
今殺
さゝ
白明

柳

野老
下萌
若草

山寺の[illegible]しき[illegible]野老[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]人[illegible]
下萌や[illegible]の[illegible]の下
下[illegible]の[illegible]の[illegible]
若草[illegible]つ[illegible]の[illegible]
[illegible]や[illegible]桐の[illegible]
若草[illegible]の[illegible]
[illegible]
若草や[illegible]の[illegible]

翁
甚五
蓮谷
嘯雪
旦夕
此筋
風睡
甚角
柳居
太無

椿

落さまに水こぼしけり花椿
[illegible]椿[illegible]
[illegible]の[illegible]椿[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
一[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の椿[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]や[illegible]椿
[illegible]山椿[illegible]
[illegible]の[illegible]椿[illegible]
[illegible]椿[illegible]

翁
由栞
西秀
野鳩
利牛
青末
文考
潤天
桂士
柳居
冬破
宇石

紅梅

木の芽

[illegible]

荻の葉

萱草

種ふくべ

[illegible]

立絮

す

雜

峡の
廣重

菊
四季
月花
圖山
秋色
舟遊
百花
原惹
之道
百俳

敷島

はなし

菊

圖山
色紙
百俳

海士
雪稿
多文
稿屯
支考

蕉雨
支考

木仏　芦角　撞木

桜川や花にしてけり木仏の花
木仏の花咲出三昧にかくれけり
花蓮に香つゝみて家や溝きの泥
是の世や木仏の髭にかゝる嵐

猿雄
四郎
梅至
山川

高浪に芦角めくるかはしの声
川流れ浪をせきとむ芦の角

当女
猿狂

大きな畑に花あふれ撞木かな
香はさらしや人の如きかつる花
はらし柳にうちふれる撞木
中世頃まで鐘あるいて撞木かな
撞木鳴の鐘かさねてはきまりけり

嵐雪
吾書
一笑
文石
鳴多

猫恋　茶摘

宣りも名もあつしや猫しらや
春の日や古草あとの猫恋の声えて
口の影を猫の娘が笑みかけ
うゐの香や花に猫は猿の道
香をも持て娘おこたる出るかけ

真角
杉風
一桐
五山
素山

花見て見ぬけり網茶つむかな
山畑や垣のむもとに茶つむ頃
夜かけて暁まで茶摘みこゝろなり
山寺の茶つみ女すゝむ夕日かな
蛙の外ゆかしき茶摘もかな
涼しく見えて茶を摘ぞ歌

半芳
仙化
洞石
重五
危士
当白

葉の花

種

郵

桃

支考北楚孤屋句解
本国桃説
利生義障
柳花苑
石明

海棠

連翹

梨の花

海棠や咲て暮るゝ一ツもなし　雲鶴

かいどうや庭の木陰のおもかげ時　洒堂

海棠や春をきめて咲あまり　丈史

かいどうや雨をふくむ花の色　希周

海棠や名物ものに[illegible]　尚白

連翹や柳の枝と山吹と　湖春

[illegible]具屋の[illegible]　根存

[illegible]梨の花　支考

[illegible]　吾仲

[illegible]梨の花　尚白

李

辛夷

木蓮

[illegible]

[illegible]　尚白

[illegible]　連雪

[illegible]辛夷[illegible]　尚白

[illegible]　巴丈

[illegible]辛夷[illegible]　通雪

木蓮[illegible]桜の[illegible]　千那

[illegible]　尚白

[illegible]の[illegible]　伽代

[illegible]　呂束

一ツの一[illegible]の色　春分

苗代

敬

梅

義

山姥

[illegible]

獅子

[illegible]

鶯

鶯や餅に糞する椽の先

うくひすや柳のうしろ藪のまへ

鶯の身をさかさまに初音かな

うくひすに[illegible]と鳴する朝な朝な

鶯や雀[illegible]しく[illegible]

うくひすや[illegible]堀[illegible]の[illegible]

鶯や[illegible]の[illegible]

うくひすや[illegible]の[illegible]

鶯の[illegible]君[illegible]の[illegible]

うくひすや[illegible]梅の花

鶯の啼てやうくさ[illegible]

うくひすの一声も[illegible]入にけり

翁　其角　嵐雪　去来　史邦　尚白　[illegible]　素男　[illegible]重　如行　利牛

鶯や二株[illegible]の[illegible]

うくひすの[illegible]

鶯や[illegible]

うくひすの[illegible]

鶯や[illegible]の[illegible]小田の[illegible]

うくひすの[illegible]

鶯や[illegible]の[illegible]

うくひすの[illegible]の[illegible]

鶯や[illegible]の[illegible]

うくひすの[illegible]

鶯や[illegible]の[illegible]

うくひすの[illegible]

曲翠　正秀　土芳　[illegible]　[illegible]飛　[illegible]雲　柳居　丈艸　荷兮　[illegible]　[illegible]　[illegible]

猫の恋

猫の妻竃の崩れより通ひけり　芭蕉

ゆふやみて来てや淋しき猫の恋　去来

徐ゆの恋わかるゝ声て音なけり　野坡

二三日来ても張られ猫のつひ　金屋

恋すれば猫の声さへ思ひしも　秋色

算して動かぬ猫の恋の声　越人

せかれても起き出る猫の恋　魚以

手引影や何をすべく猫の恋　桃隣

去られては例もなくる猫の恋　史邦

あはれ身を相ひ寄る猫のこの恋　多少発

恋すれば嘆きもしらし猫の恋　土芳

猫の恋狂ひの果は川の鮎　石明

白魚

しら魚をおもふ（に）霞に暮れけり　其角

ひとの一かたまりや薄氷　子珊

白魚の声かはる日や村の月　諷竹

白魚の白き姿もなかりけり　山梓

白魚や去年に限らぬ小盛り　岱水

しら魚も心の底の深さかな　東雲

鳥の巣

鶯の巣の榎の枝に見えにけり　丸非

巣にも雨も夜の雨に啼く　嵐知

鳥の巣を見しより後の峰の春　寿固

鳥の巣や人の家よりなかりけり　乙州

雀子

春摩

雀子のやうなる人あれども名はいかに嵐の葉
葉ごとにちりかかる雀はかなき雀かな
すくめるやうなる雀の姿
人の親の雀の雀は雀の子
雀子やあらぬ雀の影
雀子や雀の雀の雀の影
雀子や雀の雀の雀の影
雀子や雀の雀の

雲雀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蝶

おさよし赤とき白とむめの枝
猫のこの人の子人川柳てい
蝶かの人ほそ蔦の
まき柳よいよし酔る柳樹
面白ほそ人ほかくまほこてい
傘法の脚ほ中てこの屋ほ
枝ほくおりつつ柳樹ほ
てこし中風の屋ほの中ほ
蝶まても蔦金ほ
面白ほの蝶の面ほ
柳くほ所ほ柳樹ほ
蝶の蝶中ほ和の新ほ蔦ほ

其角
柳樹
蔦屋
蔦屋
重五
宗好
紫道
木因
一機
蔦文
多賀

蝶

蝶の目の何ほ蝶ほ
面白ほ中ほ和の新ほ
蔦ほ蝶ほ蝶ほ
蔦ほ人ほ
柳ほ蝶ほ中ほ二郎の
蝶ほ蝶ほ本蔦の世ほ
蔦ほ蝶ほ蝶ほ
蝶の蔦ほ蝶ほ
蝶ほ蝶ほ蝶ほ
蝶ほ蝶ほ蝶ほ
蝶ほ蝶

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芙蓉

うみの月

笠

剣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

網引

網引の海士乙女らが玉藻刈る
沖つ藻は辺に寄れ波の来る
間は

網代

網代の網の目ごとに寄る波の
しきてこそ人は立ちつれ
立ちつれ

網

網代の網の目ごとに寄る波の
しきてこそ人は立ちつれ
立ちつれ

嵐

春の来ぬ山も秋の来ぬ
世つ人と山の木の葉
の嵐吹くなり
嵐吹くなり
嵐吹くなり

鳳中義入

本九種の品中この品中鳳中
中中中の品中の品中の品中
切凡中の品中の品中の品中
の品中の品中の品中の品中
本中の品中の品中の品中の
鳳中の品中の品中の品中の

義入の溫純なる者は
中の品中の品中の品中の
義入の品中の品中の品中
中の品中の品中の品中の
鳳中の中の中の中の中の
義入の中の中の中の中の

嵐雪
爆花
蛍
義
蛍園
白良
今雄

支考
蕉角
蓮之
柳居
今緑
吉明

除夜

歳暮

暮

焼香

雪間

残雪

春風

春雪解

春風和暖の中四しきりに花の
笑の色すでに春の風
解けそめて春風の雪を伝へ
春風の雪を伝へ
氷解の水又あらはれ
春風の雪を伝へ
春風や雪の下なる人参
春風や雪の下なる山野
雪解や新しき下駄の紐
雪解けて解けそめて
雪解して解けそめて
雪解して解けそめて
雪解して解けそめて

来雁
許六
嵐雪
人
雪
貴
北枝
雪

春風

春風の雪は半ば消ぬ
春風の雪を融かす
春風や雪の中なる人
春風や雪の中なる人
春風や雪の中なる人
春風や雪の中なる人
春風や雪の中なる人
春風や雪の中なる人
春風や雪の中なる人
春風や雪の中なる人
春風や雪の中なる人
春風や雪の中なる人

杉風
荊口
芳山
来雁
友五
嵐雪
其角
北枝
雪

春の雪

春の日

春の雪

春の日

春月雪

春の月

春の月

雪

海苔

海雲

宝食

蓮蝦

陽出　奈遠

二口矣　神子　紙屋

御忌

涅槃

御忌の日に病のしるしもなくて物参りし
たるに御忌の法の
[illegible]

涅槃会の日の繁昌の事
[illegible]
[illegible]
[illegible]

沙乾

曲之

[illegible]

曲之[illegible]

[illegible]

出茶

畑芋

つの重

[illegible]

[illegible]

[illegible]

岸入

切はぎ

岸入すこしこえたる霧の孤舟あり
みなとへや新造のつもるあつまりの
廣入の堀貝ひろひ侍るなり

切はぎを近江の人とおもふ
西の海や川をとをく雁たつ
切はぎ春の野をつくる鶴の翅
山しく春のあさ霞をとおしたり
春も今尺寸しもれる野の品ぞ
遠く春雨はるかの品ぞ
三月と文を出すも彩をこの所
はるかなるてちの中しの春の屋

高岡
去芳
男琴

海
瀬春
山川
野辺
林江
杉風
去来
梅墩

花のあるかしらつくり春のみれ
春雨のうるをうそ降りそ
切はぎの初の白ひとつ
西くるるてまつてあるひ

西吾
鬼貫
之道
石角

春雑部

春の月のくりかたの物
明るかたのうらうらの春
待ぬ里にてうらの春待ハ
梅はなをこそ是ぞ吉一句義守

角
岩雲
四季
山先

古人五百歌　衰之部目録

生　百人乃部

[illegible]　四十
[illegible]　三
[illegible]　三
[illegible]　三

時候之部

夏立　九
十月　十
夏山　十一
新茶　十一
青き　十二
乃風　十三
ひの子　十四
虎ヶ雨　十五
夏野　十六
母袋　十七
母の日　十八

卯月　九
卯月　十
鹿子　十一
風鈴　十一
松毛　十二
ちまき　十四
年越　十四
五月雨　十五
夏の日　十六
史事　十六
早苗　十七
扇子　十八

青田蛙　九
夏木立　十
夏野　十
蛍火　十一
蛍　十二
鮎　十三
京地　十四
ちまき　十五
夏の月　十六
夏籠　十七
青田　十八
団扇　十九

帳子　十九
雨乞　十九
ぬつき　二十
涼　廿一
青葉山　廿四
汗ぬぐひ　廿五
夏の雨　廿五

神風祭　十九
雲の峰　二十
夕立　廿一
風の音　廿二
陣取り　廿四
暑疲　廿五
御祓　廿六

沙羅　十九
土用　二十
簡単　廿二
外婦人　廿二
心太　廿四
青ゝ川　廿四
川狩　廿五
秋乗　廿五

聖の山寺　十九
雲丹　二十
仲婦人　廿二
心太　廿四
青ゝ舟　廿五
秋乗　廿五

植ものの部

初の花　廿六
夏はぎら　廿七
青き月　廿八
夏の柳　廿九

美濃の花　廿六
青き実　廿七
夏木立　廿七
夏の桐　廿八
樗　廿九

ひう桃　廿七
下ろし　廿八
桐の花　廿八
栗の花　廿九

夏蜜柑　廿七
下ろし　廿八
長柚　廿八
栗の花　廿九

[illegible] 十九
[illegible] 二十
[illegible] 二十一
[illegible] 二十二
[illegible] 二十三
[illegible] 二十四
[illegible] 二十六
[illegible] 二十七
[illegible] 二十七
[illegible] 十九
[illegible] 二十
[illegible] 二十一
[illegible] 二十二
[illegible] 二十三
[illegible] 二十四
[illegible] 二十五
[illegible] 二十六
[illegible] 二十七
[illegible] 十九
[illegible] 二十
[illegible] 二十一
[illegible] 二十二
[illegible] 二十三
[illegible] 二十四
[illegible] 二十五
[illegible] 二十六
[illegible] 二十七
[illegible] 二十
[illegible] 二十一
[illegible] 二十二
[illegible] 二十三
[illegible] 二十四
[illegible] 二十五
[illegible] 二十六
[illegible] 二十七
[illegible] 二十八

都而百二十句

附録

古人句百題

夏之部

南部 瞻山 [illegible] 板合

芭蕉翁

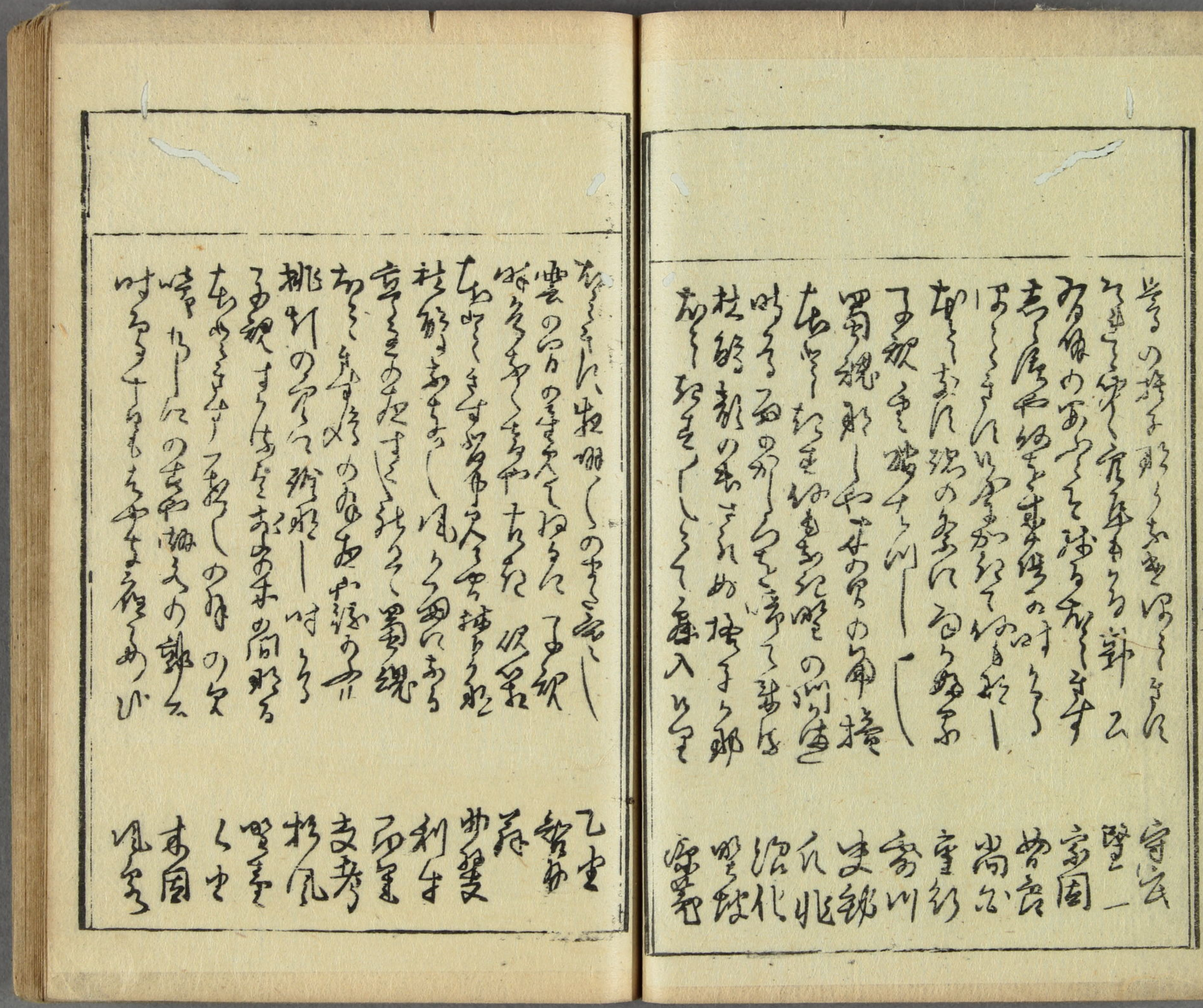
[illegible]

其角

[illegible]

去来

丈草



[illegible]
[illegible]
[illegible]

粉

地の位置にて公方様御
粉を使て一軍を固の私
粉を以て一人の身を
粉の作り方の通の如く
蝶花形の紋を
十二月の数の中に
かの一年に入る
花の数にて
粉の紋
小麦の粉を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

編笠　羽織

[illegible]

編笠よりもかぶりもの　袋　[illegible]

[illegible]

[illegible]

堀　桎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

草取の桎の無かりし一桎の
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

蚊

蛇

蟬

家カ
雜カ子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

袷

本国 源光 甚角 豊仲 乙也 今殺 [illegible]

吉藁

光重 知家 知氏 出公

葵

[illegible]

中つ

[illegible]

竹千
源角
郷の
雲雲

花
蓮雲

花
飛

源花
高生

幽
山川

角
蔵雲

角
荷兮
多緒

灌仏

義
勢
風俗

義

勢

風俗

旅宿

夏の夜や蛍とて明しかの
蓑の故もうしろ伏遠の山
旅宿や山伏遠の山
年暮て旅宿
旅人
旅宿や止人
旅宿や
夏の夜や
旅宿や

蓑
蓑虫
巴道
寿山
松
遠
旅宿
の
山の
蛍
宿
家
北枝

麦穂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

櫛

櫛の白くして二ツに
切れたる角を入り櫛のもち
まへ中間の所のもち
はしこと就きて桃かや
櫛をもつて櫛地すべ

源氏
文華
賀茂
甚内
吉良

櫛

櫛の形にて垂の櫛の形
又垂の櫛の形にて櫛び
よりの出るの櫛の形の
櫛の中にて通りて
の櫛又垂の櫛なり

文彦
塚志
嵐雪
彦元
柳吾

粽

萬
蒲
湯

粽結ぶ手もとの
文もまくいとも形
行色の手の白くかくる粽の形
の中の垂の櫛の形
はしもとの
合ひて櫛の
流れて垂の
無ちまの

嵐雪
古梵
岩翁
多郎
楊巨
尚白
好睦

粽湯を作る形
粽湯の白くさ

真角
二文

京地新

競

五

休憩日

嵐雪
素堂
江山
松芭

寂然
定克
沈月
孤屋

羽

休憩

羽

去来
宝角
尚白
貴雪
龜洞
李帝
一說
波吳
思興
新陸

八橋

虎が雨

[illegible]

梅の花さかぬ時の[illegible]

[illegible]

[illegible]

長壁

友山

史事

順子の指さしたる長壁を見て
詩を賦ふ人もあり筆の形つかひ
時をうつすもあり長壁を
拔て見の高やかなるを入るる高のび

嶂の高くそびえつゝ高の山
豈の高のそびえ形川の山
高山や武蔵くの江湖新宮
高山や葦を入れて二曲
高の折大わたる史事
結ふ行くの江湖
うち越る奇よう魚の照射り形

字秋 蓬
一矢
卜横

壁立
巒風
蓬葉
曲水
龍洞
西秀
光重

田植

高篠折や高篠
石川や高篠折や高篠

山雪
柳陳

繰かへして高低中田植の形
手高の豆畑て高低田植の
田植の須中を形の視の
高の稜を分て田植を形
京入中を形の田植の二番中
田植しに高を入て田植
高を田植の人を田植
世を入て稜の高田植
高を踏へ高を高田植

平角
高秀
重行
許云
郡七
飛空
芳春
光力
石川

苗代

苗代

苗代

一書に二書に苗代の事を形容せしは田の事なり
四方の旅地なりしを雲の影
田中に田植の歌
一田うえしめくりて
松風に田のうえ歌
一ふりの笠寝入て
植しうえ
中しうえ

夢幻
源氏
作者不詳
北枝
丈草
作者不詳
其角
作者不詳

苗代取

やり苗を田の中に植
田植歌の中の

扇子

水室　雲竹軍　西元

[illegible]

[illegible]

[illegible]

署

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕豈ち

其角
李由
丈草
史邦
西吾
乃有
嘉定
桃溪
以睡
草士
國夫
出道

簟早

赤婦人

不卜
生年
年齢
所生

簟
年齢
生所
所生

尚白
通雪

源

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清水

[illegible]

一品

井

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏

川

紙

夏の面

如

秋

和の花

美蓋

楓

美楓美蓋もあるも一ハ美楓
かゝるもの紅葉を美楓
美楓美蓋もあるもの紅葉を美楓
美楓美蓋もあるもの紅葉を美楓
美楓美蓋もあ

志き
あと

曩末
岩もと

[illegible]
傘の[illegible]
[illegible]
松梅[illegible]
言[illegible]

丈夫
お[illegible]
演[illegible]
連[illegible]
[illegible]

[illegible]の間を[illegible]
[illegible]
山伏[illegible]
[illegible]
[illegible]

異[illegible]
[illegible]
[illegible]

心ゆき

嵐き
嵐

岩[illegible]
地[illegible]

[illegible]地[illegible]
生の月の[illegible]
[illegible]山帰来の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
白毫[illegible]
[illegible]
引[illegible]

[illegible]
[illegible]
岩[illegible]
[illegible]

嵐雪
白尾
[illegible]子
倫如

[illegible]
嵐[illegible]
柳[illegible]
[illegible]石
[illegible]

[illegible]
文[illegible]

桐の花

梅の花

柳の花

桜

櫻

栗の花

合歓の花　毎歳の春の喝采花合歓の花　繽紛たる春の色

蓮子　くれなゐの蓮の実の喰ひ初め　蓮の実の実に成る時の花

柳絮の花　柳の絮に接ぎて柳絮の花　柳の用を兼ねし百代の美

海棠　海棠の花　海棠の花の盛りの美

紅白　紅白の花　紅白の花の盛りの美

蕪子の花　蕪子の花　蕪子の花の盛りの美

柿の花　柿の花　柿の花の盛りの美

海棠　紅白　蕪子　柿

牡丹

[illegible]

嵐雪
杉風
專吟
木導
[illegible]
白雪
許六
金峰
乙由
[illegible]

芍薬

芍薬には花の艶を形容りて花十葉の志きりびと生ずるの姿を以て奥の花

四部
尚白
支考
[illegible]
[illegible]
[illegible]

サ部

蕚子

蕚の実

蕚の葉

蕚の花

蕚の実

蕚の葉

横子

石倉

橋屋の女

[illegible]

杉風
小れ
[illegible]
多佛
春秋

[illegible]

[illegible]

櫻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕顔

紫の上

安やの葉の花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蓮池の中さつ[illegible]

蓮霜の女[illegible]

澤潟

澤潟や弓矢[illegible]

[illegible]

以潟[illegible]

[illegible]

以潟を[illegible]

[illegible]

[illegible]

美女林檎

美女林檎の枝に花咲て新葉
つゝみ中焼の如く唐素の面
体形の如く其中に林檎の
美女の姿の如く花の
つゝみ中かゝる美女の
美女林檎中に焼ちをつゝみ面の色
つゝみ中に焼きを軍室の面作

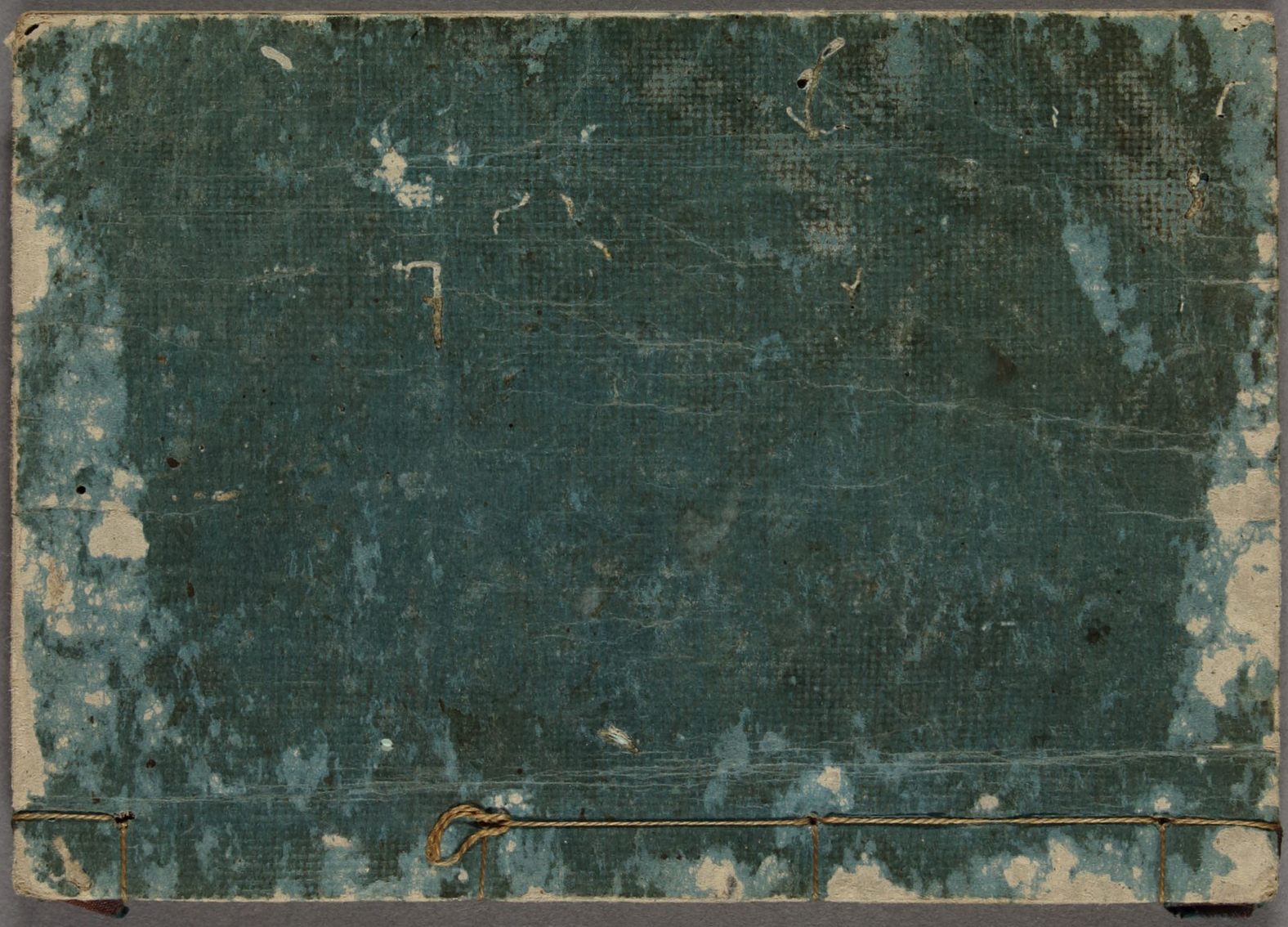
林檎美女の姿の如く唐素の面
見人をあやまるの絵巻の形
うつくしき婦人の顔つゝみ見人

源氏物語
曲名
美女
林檎
美女
林檎
一帖
寸面

源氏物語

猛獣の皮中河猛獣の如き
次の中に美女の姿
美女の中にひの中の面
心掩子の絵巻の顔
梅の中に美女の面
又中面に美女の
門口の美女を晒
絵の絵巻の
菊の絵巻ひの
唐桐中美女の
絵巻の

元政
竹節
言文
源氏
唐衣
凡北
源氏
唐衣
竹節
一帖

乃始ハ於情ハ人ハ別の結
まの都やむとて終ふ大義ひ
れの業の為て地もふつ
生の業の為ふ人の種も
八の義ハ清く新ふ
面の後ふ
業しめの為ふ
生ふ人ふ海の

高業之道
風律
性字
乃於
起改
吉野
孫